

新型コロナウイルス感染症拡大状況下での自然に対する世界観と心理的健康の関係における文化の役割

【本件のポイント】

- 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大状況の中で、自然に対する世界観と心理的健康の関に文化的コンテキスト※¹の違いがどのような役割を果たすのかを、日本とアメリカの比較を通じて検討しました。
- 文化によらず、自然との調和の世界観を持つことは良好な心理的健康につながる事が明らかになりました。
- 日本人と比べて、アメリカ人は自然を支配する世界観がネガティブ感情とより強く結びついていました。



【概要】

山形大学学術研究院大村一史教授（認知神経科学）は、ジョージア大学を中心とした、コネティカット大学およびカリフォルニア大学サンフランシスコ校との国際的な共同研究により、新型コロナウイルス感染症拡大状況下における自然に対する世界観と心理的健康の関に文化的コンテキストが及ぼす影響を明らかにしました。オンライン調査を用いて、新型コロナウイルス感染症拡大状況下における日本とアメリカの比較を通じて検討したところ、両国において、自然との調和の世界観を持つことは良好な心理的健康と関係していました。一方で、日本人と比較して、アメリカ人は自然を支配する世界観がネガティブ感情とより強く結びついていました。これらの結果は、新型コロナウイルス感染症拡大のような非常事態状況下にあっても、文化によらず、自然と調和した世界観を持つことが心理的健康にとって良好な影響を及ぼすことを示しています。自然との調和を求める世界観は、心の平穏をもたらすために人類普遍的に内在するものであり、生命や自然を好む生得的傾向があるとするバイオフィリア仮説※²を支持するものと言えます。また、アメリカ人は自然を支配しようとする世界観が強いほど、ネガティブな感情を抱きやすいという結果は、アメリカ人と日本人では、物事の変化や矛盾に対する寛容さや中庸をとろうとする傾向、認知的不協和※³における感受性に違いがあることにもとづくものと解釈されます。本研究成果は、心理学分野の国際学術誌 *Personality and Individual Differences* 誌に掲載されました。（2020 年 10 月 10 日オンライン版掲載）

【背景】

これまでの研究から、自然に対する世界観が心理的健康にとって重要なことは示唆されてきましたが、大規模自然災害や感染症パンデミックなどの非常事態下においては、両者がどのように関係しているのかはよくわかっていませんでした。また、自然に対する世界観は欧米とアジアでは異なることが指摘されてきたものの、文化差の視点から、非常事態下における自然に対する世界観と心理的健康の関係を明らかにした研究は存在しませんでした。そこで、本研究では、2020 年前半に起きた新型コロナウイルス感染症拡大状況下において、自然に対する世界観と心理的健康の関に文化的コンテキスト（日本 vs. アメリカ）がどのように影響するのかを検討することにしました。一般的に、欧米人よりもアジア人の思考は、物事の変化や矛盾に対して寛容的で、中庸をとろうとする推論の傾向（素朴弁証法的）が強いと考えられています。認知的不協和に対する感受性にも文化的な違いがあることが指摘されています。

【研究手法・研究成果】

クラウドソーシングサービスを利用したオンライン調査により、日本およびアメリカからデータを収集しました。最終的に、日本人 381 名（うち女性 200 名、平均年齢 39.81 歳）およびアメリカ人 409 名（うち女性 174 名、平均年齢 47.11 歳）を分析対象としました。COVID-19 の個人的影響・家族の影響・経済的影響を尋ねる 3 項目、世界観について尋ねる 12 項目、自覚ストレス尺度によりストレスの自覚を尋ねる 10 項目、ネガティブ感情・ポジティブ感情を尋ねる 12 項目を使用し、それぞれのスコアを算出し、多母集団確認的因子分析および年齢と性別を共変量にした重回帰分析から変数間の関係を検討しました。

結果は以下の3点にまとめられます。第1に、新型コロナウイルス感染症拡大状況下では、日本およびアメリカともに、これまでよりも心理的な困窮状態は大きくなっていました。第2に、日本およびアメリカともに、自然と調和する世界観は、良好な心理的状态と関係していました。第3に、自然を支配する世界観は、アメリカにおいてのみ、ネガティブ感情と強く関係していました。

【今後の展望】

新型コロナウイルス感染症拡大のような非常事態状況下にあっても、自然と調和した世界観を持つことは心理的健康を良好に保つために重要であると考えられます。矛盾や対立を含んだ心の状態を中庸的にあるがままに受け止めようとする日本人が持つ思考は、人類がウィズコロナの新時代をたくましくかつしなやかに生き抜いていくためのヒントとなるかもしれません。さらに知見を積み重ねていくことで、新時代における心理的健康の維持・増進に役立つことが期待されます。

【論文情報】

題名：The role of culture on the link between worldviews on nature and psychological health during the COVID-19 pandemic

著者：Brian W. Haas, Fumiko Hoefft, and Kazufumi Omura

掲載誌： *Personality and Individual Differences*, 170, 15 February 2021, 110336. 2020年10月10日オンライン掲載

DOI： <https://doi.org/10.1016/j.paid.2020.110336>

※用語解説

1. 文化的コンテクスト：人々に暗黙裏に共有される文化的背景知識
2. バイオフィリア仮説：人間が自然や動植物などの生命との関わりを生得的に好む傾向
3. 認知的不協和：行動や考えにおける対立あるいは矛盾する認知によって生じる不快感

新型コロナウイルス画像提供 国立感染症研究所

お問い合わせ

学術研究院 教授 大村一史（認知神経科学）

TEL 023-628-4439 メール omura@e.yamagata-u.ac.jp